

=本日および今週の礼拝・集会等=

※新型コロナウイルス対策のために会堂での礼拝他すべての行事を中止します。

=今週の祈りの課題=

- 今わたしたちが直面する現実において、主イエスがどのような言葉で希望を示されるのかを訊ねて祈りましょう。
- 主イエスが備えられる食卓の礼拝が、再びはじまる日を願い、祈りましょう。
- 鹿島栄光教会(福島県南相馬市;現住6名、礼拝6名、経常 160万円)を覚えて祈りましょう。

=今週の聖書日課=

4/27 (月)	1 ペトロ	4:1 ~ 11
4/28 (火)	”	4:12 ~ 19
4/29 (水)	”	5:1 ~ 14
4/30 (木)	2 ペトロ	1:1 ~ 11
5/1 (金)	”	1:12 ~ 21
5/2 (土)	”	3:8 ~ 13
5/3 (日)	ヨハネ	21:1 ~ 14

=牧師室より=

- * 4/27 (火) 午前 農村伝道神学校
- * 4/29 (木) 午前 ”

=会堂礼拝に関するお願い=

※皆様ご存じのように、感染症による状況は相変わらず厳しく、現時点では、会堂礼拝を再開できそうにありません。役員の方々とも、メールを介して話し合った結果、会堂礼拝他、集会など会堂での活動は引き続き中止しますので、よろしくご理解くださるようお願いいたします。また、先行きのことなどについて5/10(日) 定例役員会において、話しあいますので、あわせてご理解くださるようお願いいたします。
(牧師)

=報告=

※掲示板の利用についてお願い

現在、掲示する印刷物は、生田教会、川崎・鶴見地区、神奈川教区、日本基督教団の優先順位で牧師が管理しています。個人で掲示したいものがある場合は、牧師まで申し出ください。また、最近数回「教団新報」をお持ち帰りになった方は、機構改正についてなど大切な情報が掲載されていますので、牧師の週報欄にお返しくださるようお願い致します。
(牧師)

【説教要旨】

本日祈りに覚える東日本大震災で被災した教会は、鹿島栄光教会です。この教会を、被災直後の11年5月に友人牧師、信徒ら4名で訪ねました。今思い返せば、無知、不備ながら、とにかく訪ねるべきだと勇む思いで現地の諸教会を訪ね回ったのでした。屋根を覆うブルーシート、古い木造の小さな教会の応接室に案内されて、S牧師に、開口一番大声で怒鳴られたのでした。南相馬市のなかでも最も南に位置しているその教会は、当然、地震と放射能による汚染の深刻な影響のもとにありました。少ない信徒のなかでも役員を務める方なども避難しているので教会の運営は熾烈を極めていたようです。付近を案内しながら牧師さんは、はじめに激昂して怒鳴った怒り以上に優しく穏やかな口調で、なぜ自分が避難しなかったのか、理由をぼつりと話してくれました。もちろん教会の責任があたりだからですが、どうしても避難することができなかった大きな理由は他にもありました。曰く、息子さんが重度の自閉症で、環境の変化に

適応できないことが明らかだったからだというのです。わたしは自らを恥じました。教区でも常置委員(教区全体の役員のような務め)や社会委員会の重責を担い、被災地を訪ねてどんな支援がこれからできるのかというご立派な動機、とりわけ障がい者を含む社会の少数者を十分に考慮した支援を展開するということ尊い動機を抱いているつもりだったその自分が、牧師さんの開口一番の怒りとご自分の弱さのコントラストが、わたしの「バカの壁」を突き破ってくれたのです。いかにおごり高ぶりに満ちているかを痛感させられたのです。わたしは現実をしっかりと認識できずに観念と理想を思い描いていたのです。

その後しばらくして教団の災害救援委員会の通信だったかに、S牧師さんが寄稿された記事を読み涙しました。S牧師さんはどこかに呼ばれて新幹線の車中から、福島の多数の家屋の屋根にブルーシートが貼られている光景を眺めながら自然に涙が溢れてきたというのです。ヨハネ福音書21章では、主イエスを失った弟子たちが、それぞれの日常でもどりと漁をしています。しかし現実をしっかりと認識することができません。「食べ物」がない、つまり信仰を育む糧がないのです。しかし「舟の右側に網を打ちなさい」という言葉が彼らの「バカの壁」を突き破る、そこで言葉に従うのです。その時、収穫、祝福にあずかるのです。そして主イエスの食卓に招かれ、共に食するのです。今や、わたしたちの日常もかつて非日常だった状況にあると頭では理解しています。いつの間にか非日常に適應しているのです。実感がありません。むしろ厳しい状況が続くような予感をもって日々の生活を営んでいます。先日ある役員からのメールでハッとさせられました。通常の礼拝にいかにして戻していくかの議論を始めるべきだとおっしゃるのです。長期化しそうな非日常、あるいは回復しても以前とは違う日常になるのかもしれないのです。現実をしっかりと認識するためにわたしたちには「食べ物」が必要です。主イエスが備えられる食卓の礼拝が、再びはじまる日を思い、祈りましょう。